

令和4年度

木頭小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 個に応じた指導を行い、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせ、主体的に学習する力を伸ばすための指導の実践。
- 話し合い活動を充実させ、自分の考えについて、根拠を明らかにしながら表現できる児童の育成。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員
中山 愛梨

委員
校長 中島 功
5・6年担任 水口 裕一
2年担任 中田 佳奈
養護教諭 宮本 果菜

教頭 上田 剛
4年担任 久保 佳加

校長

中島 功

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字や計算の学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い。 ●語彙力の定着の二極化が見られ、文章を書いたり、説明を表現したりすることに課題がある児童がいる。	・一人一人が自身の学習課題を把握し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ・学習課題に対して適切な言葉を使い、説明したり、発表したりすることができる。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせるために、タブレットを活用し、個に応じた課題に取り組ませるなどの工夫を行い、学力の定着を図る。 ・自分の考えを文章でまとめることができるように、適切な語句を使った説明練習や自分の考えを文章でまとめる活動を積極的に取り入れる。		・タブレットを家庭でも学校でも活用した。個々に課題を出し、学習を進めることができた。 ・小テストを繰り返すなど、反復学習に取り組んだおかげで基礎的・基本的な知識は定着しつつある。	・次年度も引き続きタブレットを活用した学習を積極的に取り入れる。今は教師が課題を選択していることが多いが、自主的にできるようにする。 ・基礎的・基本的な知識は定着しつつあるが実生活での活用がまだまだ不十分なので、継続的に指導を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○他者の意見を聞き、受け入れることができる児童が多い。 ●はっきりとした意見や考えをもつことができず、理由や根拠を自分の言葉で伝えることが苦手な児童が多い。	・自分の考えとその理由を明確にし、理由や根拠を自分の言葉で伝えることができる。 ・相手や目的を意識して、自分の考えを積極的に話したり書いたりすることができる。	・発問や揺さぶりにより児童に思考させる時間や児童同士で意見交換する機会の設定を行う。 ・タブレットや付箋を活用し、自分の考えを明確に伝えられるような工夫を取り入れる。		・自分の意見を言えるようになってきた。しかし、語彙が乏しく、上手く表現できない児童もいる。また、意見が一方通行で相手の意見に対しての意見は言えない。 ・タブレットや付箋を活用し、自分の意見をまとめたり話す順序を考えたりすることができた。	・相手が何を伝えたいか予想しながら聞くことや相手の意見をくみ取ってさらに何を伝えるか考えることが苦手である。話す力も継続しながら、聞く力にも焦点を当てて指導を行う。 ・語彙力を高めるために交流学習や読書を通していろんな意見の交換を行う。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題や興味関心のある学習に対しては、意欲的に取り組むことができる。 ●自分で課題を見付け、課題解決に向けて取り組むことが苦手である。	・自分を高めようという意欲をもち、自主的に学習に取り組むことができる。 ・学習課題に対し、解決に向けて、予想や方法などを考えて、取り組むことができる。	・児童が、活動により積極的に取り組むために、タブレットを活用しつつ、児童の興味・関心のある教材や課題を取り上げていく。 ・ふるさと学習を軸に、自ら課題を見付け、追究する楽しさを知る機会を設ける。 ・近隣校との交流学習の場を設け、学習の活性化を図り、子どもの学習意欲の向上に努める。		・タブレットを使ったり、実験や活動が入ると学習に意欲的に取り組むことができた。 ・ふるさと学習では、児童から課題を出して設定することができたが、課題の追究まで至らなかった。 ・一人一台タブレットのおかげで、近隣以外の遠方の学校とも交流学習を進めることができ、学習意欲に繋がった。	・タブレットを使っでの交流学習をもっと進めていく。多様な学習の環境を整えていきたい。 ・学園としてふるさと学習のプランを立てる。計画的に取り組むことでゴールを明確にし、課題解決に向けて自主的な学習に繋げる。

令和4年度 学力向上ロードマップ

